

生徒・保護者・家庭を結ぶ校務関連ツールの活用

岐阜大学教育学部附属中学校 永田 千尋（教務主任）

○企画の概略

ITを活用して、生徒の日常生活における当番活動や係活動などの学級活動などにおいて、自主的、創造的に活動できるような環境づくり（生徒の動きかたや学校の動きなどの基盤体制を含む）を行うことで、学校生活をより楽しくより豊かに協調的に過ごせるだけでなく、学校と家庭との双方向の情報交流により連携を一層深め、本校の目指す人間教育に効果的に活用する。

○実践内容

①IT 日誌の活用

- ・「学級日誌」（今日の予定、教科ごとの学習自己評価、教室の環境検などの日常的な活動の点検活動など）の運用と過去データの保管方法の習得にむけて、手だてを明らかにした。
- ・「予定表」の運用（学校における入力と家庭での閲覧）方法の習得に向けて、手だてを明らかにした。

②翻訳機能付き web メール の活用

- ・全生徒及び全保護者向けの「学校からのお知らせ」「学校生活」「学校たより」等を積極的に発信するとともに、受け止める側の反応から、その内容や配信の在り方を検討した。
- ・学校と家庭との連携を図った、相談活動の充実に向けての活用の在り方を検討した。
- ・地震等の場合における緊急連絡システムの構築と、効果的な運用の在り方を究明している。

③IT 日誌やメールなどの活用上の課題の究明

- ・それぞれの機能活用の習慣化を目指すための生徒の育成の在り方
- ・学校体制や教師のリテラシー研修の在り方
- ・家庭における積極的な活用のための指導援助の在り方

○成果と課題

今年度は、従来の形式的な活用の方法とともに、実質的な動きや人と人の気持ちを大切に IT 活用に心がけてきた。たとえば、学校における職員と生徒及び家庭の保護者の実質的な連携（説明会やペーパーを活用した「顔が見える IT」環境作り）の中で、IT を日常的に活用できる道具として扱い実践研究してきた。そして、「情報教育プロジェクト委員会」を新たに組織しながら全教官の総意のもとで附属中の未来に向かって歩んでいるという自覚をもってきたことが、これからの時代に必要な情報リテラシーの在り方と手だてとして先進的でも実際の実践になってきている。

- ① 校内からアクセス可能なサーバに Web ページを作成することで、多様な学校情報を公開することができた。（学校からのお知らせ、学校行事、生徒会行事、今日の学校校生活の公開、学年、学級、PTAからのお知らせ、毎日の学習活動のようすや反省、明日の時間割や持ち物、過去に行われた定期テストや実力テストの問題、学習プリントの公開及び生徒の活用）また、このデータを使った生徒による組織的で創意工夫のある活動が確立した。
- ② 翻訳付き web メールを生徒全員と保護者全員に活用できる環境にして、その使い方をていねいに連絡をし、生徒の人間教育をはぐくむ道具としての IT 活用ができた。（家庭からの教官への教育相談のきっかけ、毎日の学校だよりとそれをきっかけとした PTA の学校教育に対する理解と援助、生徒同士の自主的な学習や生活を豊かにするための活用方法）
- ③ 各学級における生徒による著作権を意識した web づくりを、学級の取り組みや仲間のすばらしさを認め支え合うための有効な手だてとして IT を位置づけるとともに、学級の様子を家庭に生徒の手で公開するよさを知り、アップロードをして web に公開できるようになってきている。
- ④ 危機管理に対応した、家庭への「緊急メール」の構築を全家庭に対してていねいに説明、点検確認を行い、家庭に緊急時の学校の状況を知らせる環境作りを完成させた。

特に、本校は、サーバを自校管理できているため必要な機能を選択でき、生徒や保護者の必要感や教官による人間教育への活動に適応したシステムを構築することができてきている。